

## 福島原子力発電所の事故に伴う被曝について

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖大地震の後、東京電力福島原子力発電所で放射性物質の放出が生じました。3月15日現在、周囲半径20km圏内の住民が避難し、20-30km圏内の住民が屋内待避しています。

今回の被曝について心配されて当院を訪れるのは次のような方々と考えられます。  
なお、関西在住の方は全く被曝の心配はありません。

### ① 被災地周囲30km圏内に住んでおり待避していてその後関西に移動した方。

放射線の量は距離の二乗に反比例します。したがって、実際に住民のある場所ではきわめて小さな値になります。例えば半径1キロ地点で1時間当たり1ミリシーベルトとしても半径20キロ地点では0.0025ミリシーベルトまで減衰します。これは健康被害が出始めるとされる100ミリシーベルトの4万分の1の線量です。さらに室内に待避すれば外部からの放射線をより多く遮蔽することができます。指示通りの待避をされた場合は心配する必要はありません。

### ② 被災地30km圏内に住んでいて待避した妊婦、小児の被曝。

被災地を通過した、もしくは被災地から実家へ移動をした妊婦で不安を持つ方については、①と同様これまでの空間線量から考えると、妊婦の内部被ばくは考慮の必要がないほど低いものと考えられます。従って、胎盤移行による胎児の直接被ばくを含め重大な影響が生じる可能性は極めて乏しいと考えます。むしろ周囲の方による精神的なケアが望まれます。小児への影響についても、これまでの空間線量から考えると心配する必要はありません。

### ③ 被災地圏外の関東一円に住んでいて被曝が心配である方。

今回、東京で自然量の約20倍の放射線量が一時的に検出されましたが、これは1時間当たり0.001ミリシーベルトと微量であり、たとえ1時間その量の放射線を浴び続けても健康被害が出るとされる100ミリシーベルトの10万分の1の線量です。心配されることはありません。冷静に出来る限り普段と同じ生活を送られるのが最善と思われます。

参考) レントゲン撮影放射線被曝線量 (単位: ミリシーベルト)

- ・ 胸部X線検査 : 0.1-0.3mSV
- ・ CT検査 : 7-20mSV